



Exastro

CloudSystemテンプレート 1st-Model 概要

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」、「CloudSystemテンプレート1st-Model オートスケーリングWebシステム」を「CSテンプレート」として記載します。

目次

1. CSテンプレート概要
2. CSテンプレート実行例
 1. 環境の準備
 2. 【手順①】 パラメータの編集
 3. 【手順②】 システム構築の実行(= Stack作成)
 4. 出来上がったシステムを確認
3. 参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー -
4. 付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する -

CSテンプレート概要

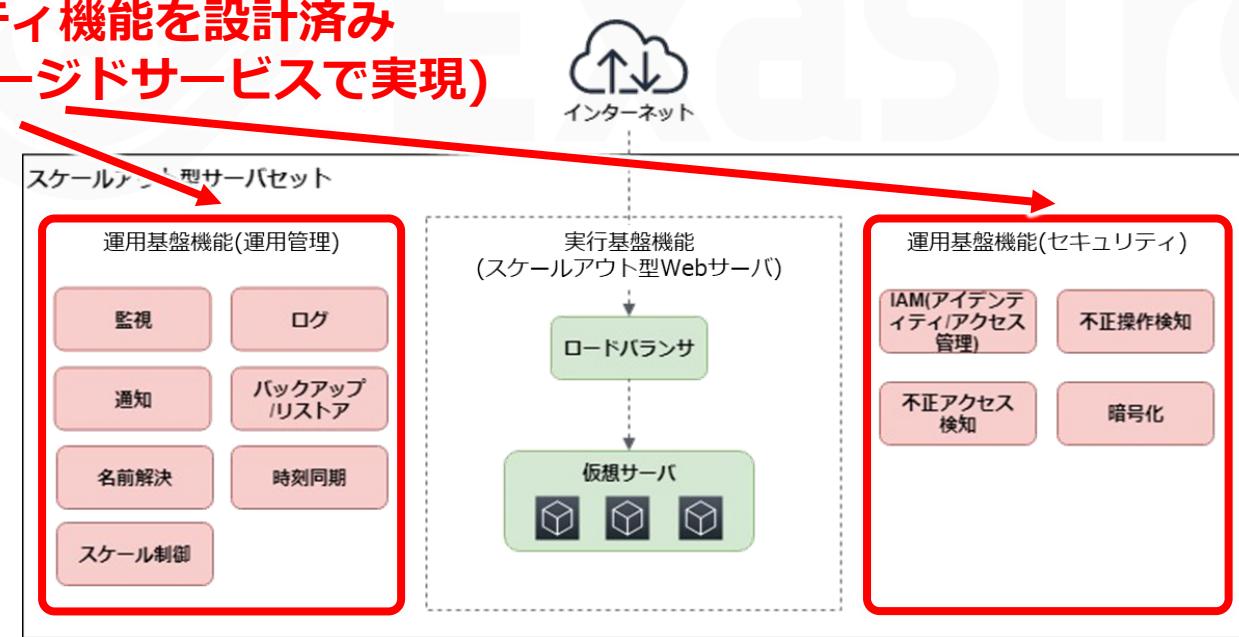


CS (CloudSystem) テンプレートとは？

CSテンプレートは「**設計済みクラウドシステムモデルのIaC(Infrastructure as a Code)**」です
運用管理やセキュリティなど運用上必須の機能が構築済みであることが特徴です

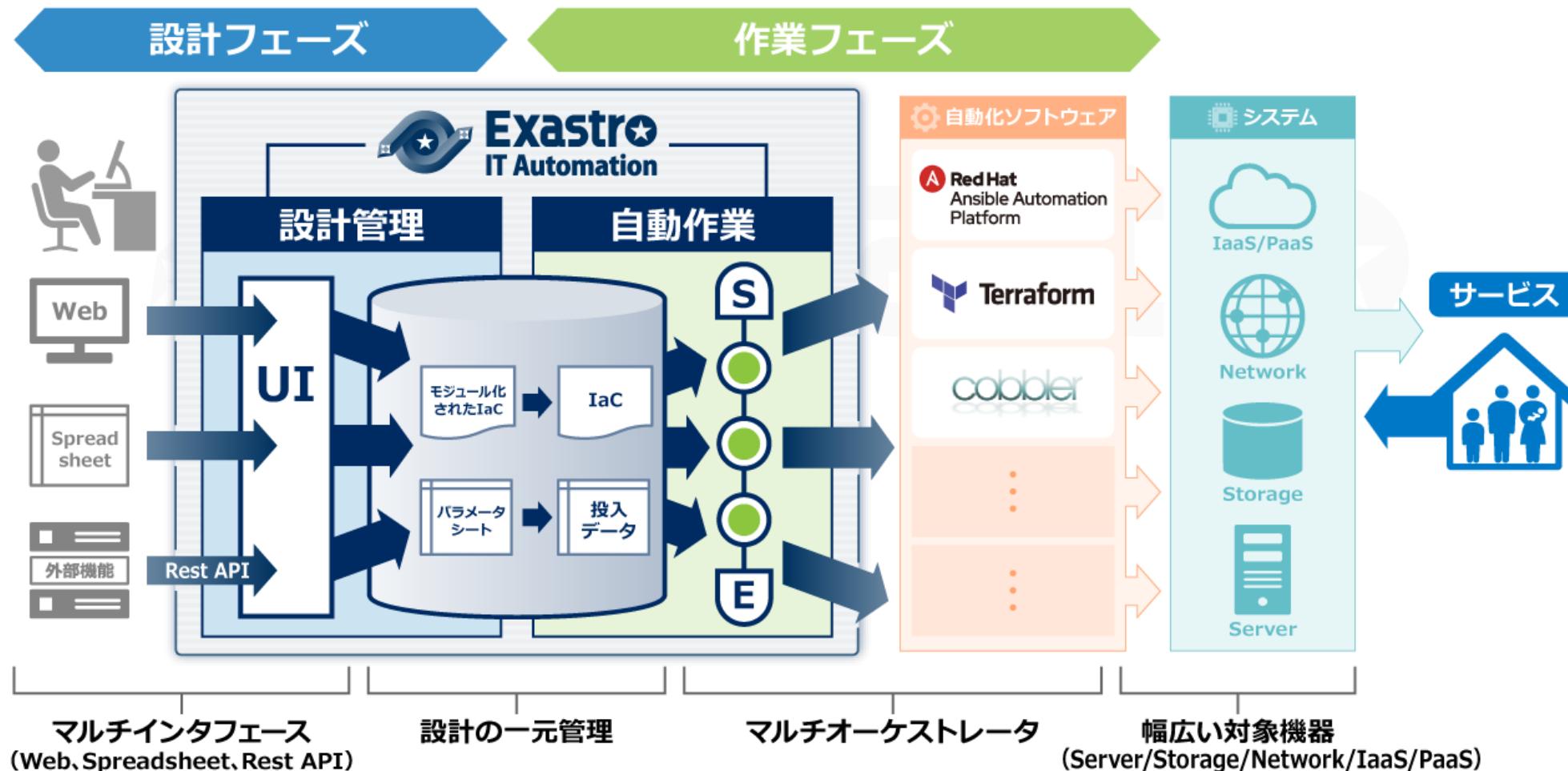
機能分類	概要
実行基盤機能	本テンプレートデモでは、ロードバランサ配下のスケールアウト型Webサーバを構成
運用基盤機能（運用管理）	監視、ログなど、プラットフォームの正常性を維持する機能群
運用基盤機能（セキュリティ）	アクセス制御など、プラットフォームのセキュリティを確保する機能群

**運用管理・セキュリティ機能を設計済み
(サーバを使わずマネージドサービスで実現)**



実行基盤機能は最低限の機能 (オートスケール+LB) のみを具備

Exastro IT Automationは 「システム情報をデジタル管理するためのフレームワーク」です



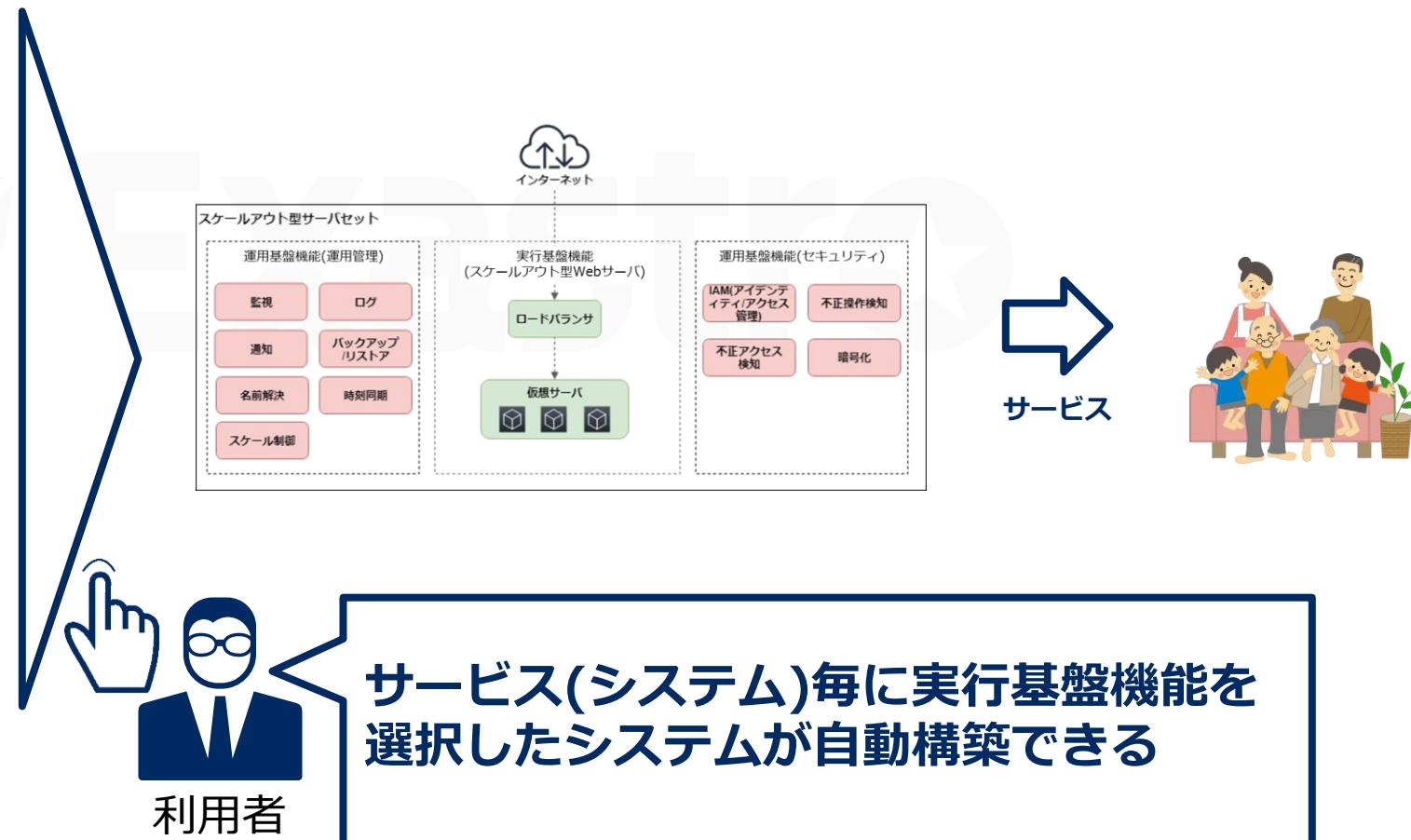
CS Template



Exastro
IT Automation

Exastroを活用したCSテンプレートの実行(1/3)

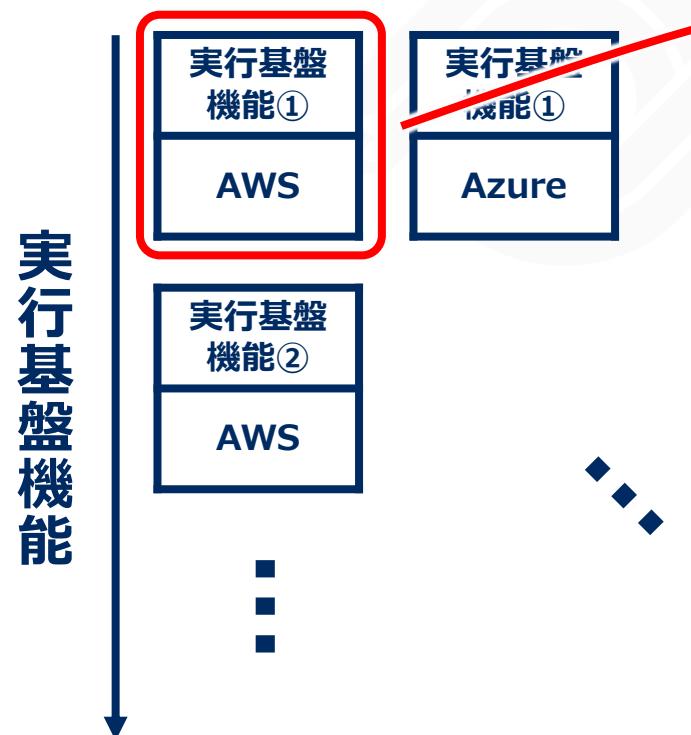
設計済みのCSテンプレートをただ提供するだけでなく、自動構築ツール
"Exastro IT Automation"にCSテンプレートを取り込んだ状態で、
パラメータ調整+実行の2アクションでシステムを提供することが可能です



CSテンプレートとExastroでの実行との関連イメージは下記の通りです。

CSテンプレート施策の広がり

様々なクラウドへの適用



Exastro ITAでの実行

Conductor

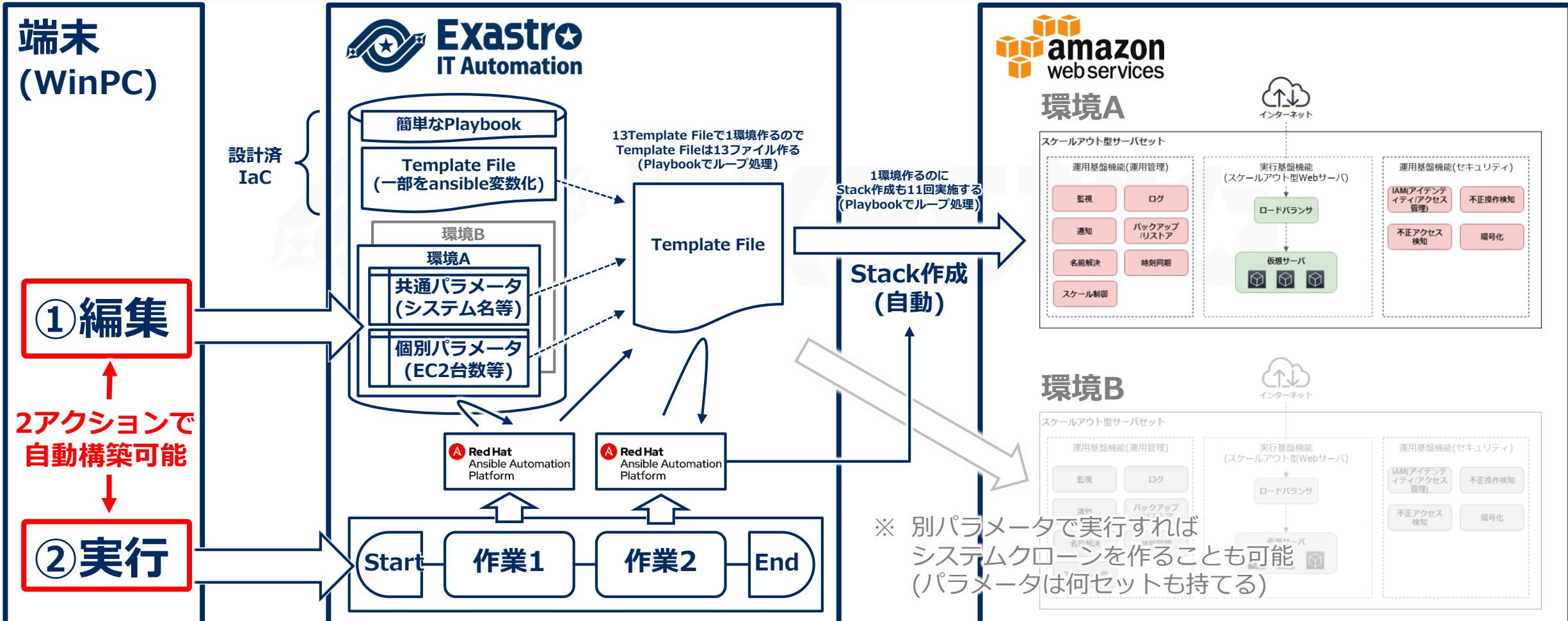


利用者



Exastroを活用したCSテンプレートの実行(3/3)

Exastro IT AutomationにCSテンプレートを組み込むことにより、以下のような流れでAWS上の環境自動構築が実現可能です。



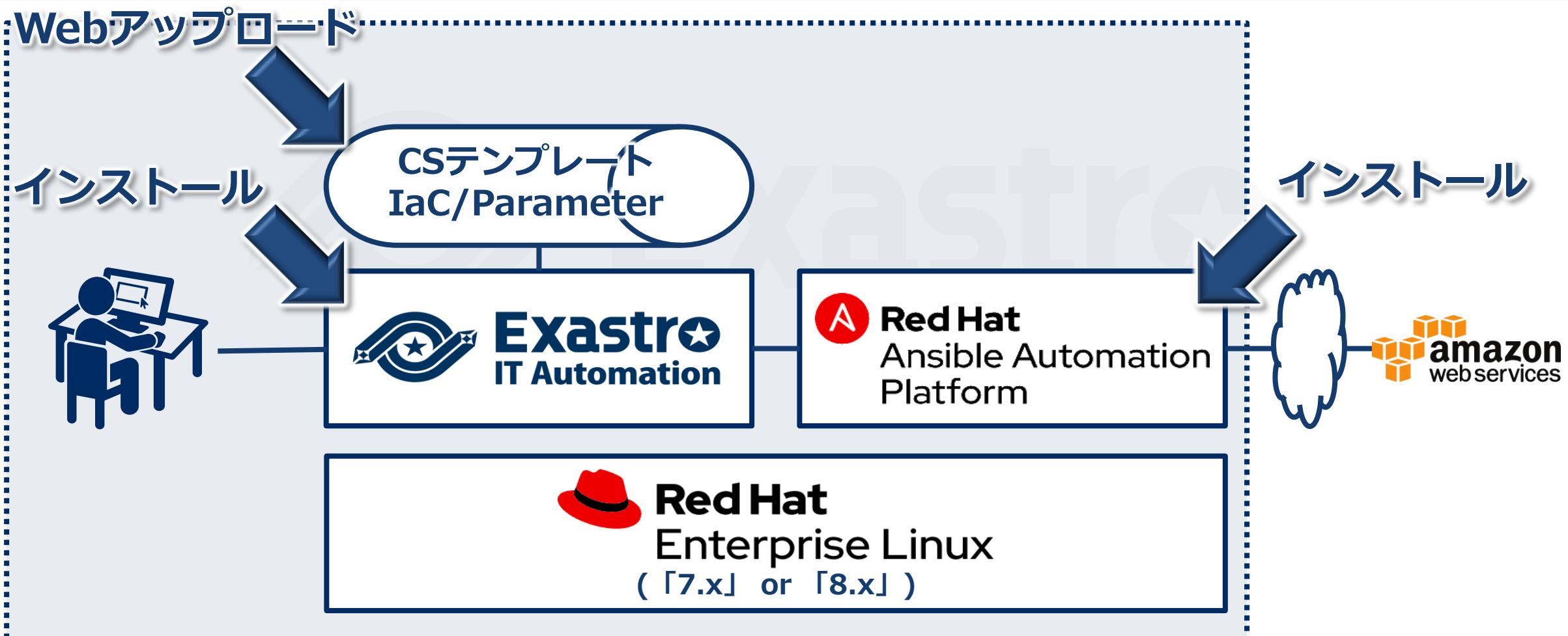
CSテンプレート実行例 環境の準備



【CSテンプレート実行例】環境の準備

以下のような環境を準備します。

(詳細は「CloudSystemテンプレート導入手順書」の導入準備と導入作業を参照のこと。)



CSテンプレート実行例

【手順①】 パラメータの編集



【手順①】 パラメータの編集 (1/3)

Exastro IT Automation 基盤管理 ようこそ[1stモデル管理者]さん
ログインID [1st-admin] パスワード変更 ログアウト

☰ Menu DASHBOARD 編集

メインメニュー

共通パラメータ (選択)
AWS管理者グループ
インフラユーザーグループ

↑
パラメータのリストが見えます

メニュー グループ

管理コンソール 基本コンソール Conductor メニュー作成 代入値自動登録用 参照用

Ansible Legacy 基盤/シナリオ

ユーザー/シナリオ システム/シナリオ AWS認証情報管理 共有等価 (選択)
ユーザーリスト… システム管理

通知先管理 マスタ管理 ドキュメント管理 代入値管理

Movement 作業状況 作業結果

Movement

37 Total 16.2 % 83.8 % Movement

Movement	SUM
Ansible Legacy	31
Ansible Pioneer	0
Ansible Legacy Role	6
Terraform	0

Status CON SYM SUM

Status	CON	SYM	SUM
実行中	0	0	0
未実行(予約)	0	0	0
未実行	0	0	0

Result CON SYM SUM

Result	CON	SYM	SUM
正常終了	0	0	0
異常終了	0	0	0
想定外エラー	0	0	0
緊急停止	0	0	0
予約取消	0	0	0

作業履歴

このパネルをクリックすると…

管理者に連絡

【手順①】 パラメータの編集 (2/3)

Exastro IT Automation 基盤管理 ようこそ[1stモデル管理者]さん ログインID [1st-admin] パスワード変更 ログアウト

Menu メインメニュー ▽開く

共通パラメータ 表示フィルタ ▽開く

AWS管理者グループ 一覧/更新 △閉じる

インフラユーザーグループ

パラメータ

履歴	更新	廃止	No	最終実行日時	システム名	AWS環境	タグ	最終更新日時	最終更新者				
				日時		アカウントID	リージョン	システム環境	システム概要	利用者	利用部門	コストセンター	
履歴	更新	廃止	1	12:10	-----	00000000000	ap-northeast-1	Dev	-----	-----	-----	-----	1st 2021/05/01 00:00:00 データポータビリティプロジェクト
履歴	更新	廃止	2	12:10	-----	00000000000	ap-northeast-1	Dev	-----	-----	-----	-----	2021/05/01 00:00:00 データポータビリティプロジェクト
履歴	更新	廃止	3	12:10	-----	00000000000	us-east-1	Dev	-----	-----	-----	-----	2021/05/01 00:00:00 データポータビリティプロジェクト

フィルタ結果件数: 3 Excel出力

「システム名」等の共通パラメータはここで指定します
(複数環境のパラメータセットを管理できます)

登録 ▽開く

全件ダウンロードとファイルアップロード編集 ▽開く

変更履歴 ▽開く

管理者に連絡

【手順①】 パラメータの編集 (3/3)

Exastro IT Automation システム管理 ようこそ[1stモデル管理者]さん
ログインID [1st-admin]
パスワード変更 ログアウト

☰ Menu

メインメニュー

AutoScaleパラメータ

S3パラメータ

SNSパラメータ

CloudTrailパラメータ

Networkパラメータ

SecurityGroupパラメータ

Bastionパラメータ

VPCflowlogsパラメータ

TrustedAdvisorパラメータ

CloudWatchパラメータ

WAFパラメータ

SecurityHubパラメータ

Configパラメータ

GuardDutyパラメータ

説明 ▽開く

表示フィルタ ▽開く

一覧/更新 △閉じる

オペレーション インスタンス設定 最終更新日時 最終更新者

履歴	更新	廃止	No	ホスト名	ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	AMI ID	インスタンスタイプ	キーペア名	最終更新日時	最終更新者
履歴	更新	廃止	1	exastro-it-automation	100,002	環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10		-----	t2.micro	-----	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	2	exastro-it-automation	100,003	環境B(1stモデル)	2021/04/01 12:10	2021/04/01 12:10		-----	t2.micro	-----	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ

フィルタ結果件数: 2

Excel出力

個別パラメータはカテゴリ毎に作ってます
例えば「オートスケールの最小/最大インスタンス数」
などの設定値を編集できます。
(複数環境のパラメータセットが管理できることは、
どの個別パラメータも共通パラメータと同様です。)

登録 ▽開く

全件ダウンロード

変更履歴 ▽開く

管理者に連絡

CSテンプレート実行例

【手順②】 システム構築の実行(= Stack作成)

[補足]Stackとは....

システムで必要とするAWSリソースのかたまり。

CloudFormationではリソースをStackという単位で
管理することで環境の生成・破棄をシンプルにしている。

Stackを作成することで、AWSサービスの構築・設定が
行われる。

【手順②】 システム構築の実行(= Stack作成) (1/4)

このパネルをクリックし…

Conductor作業実行

「Conductor作業実行」クリック

Exastro
IT Automation

Conductor

Menu

DASHBOARD

編集

管理者に連絡

メインメニュー

Conductorインターフェース情報

Conductorクラスタ一覧

Conductorクラス編集

Conductor作業実行

Conductor作業確認

Conductor作業一覧

Conductor定期作業実行

メニュー グループ

管理コンソール 基本コンソール Conductor メニュー作成 代入値自動登録用 参照用

ホストグループ Ansible 基盤管理 AWS認証情報管理 ユーザーリスト… システム管理

ユーザー/シナリオ システム/シナリオ AWS認証情報管理 基盤管理 ユーザーリスト… システム管理

通知先管理 マスタ管理 ドキュメント管理 代入値管理

Movement

Movement 37 Total 16.2% 83.8%

Movement	SUM
Ansbile Legacy	31
Ansbile Pioneer	0
Ansbile Legacy Role	6
Terraform	0

作業状況

Status CON SYM SUM

Status	CON	SYM	SUM
実行中	0	0	0
未実行(予約)	0	0	0
未実行	0	0	0

作業結果

Result CON SYM SUM

Result	CON	SYM	SUM
正常終了	0	0	0
異常終了	0	0	0
想定外エラー	0	0	0
緊急停止	0	0	0
予約取消	0	0	0

Movement

Movement 37 Total 16.2% 83.8%

Movement	SUM
Ansbile Legacy	31
Ansbile Pioneer	0
Ansbile Legacy Role	6
Terraform	0

作業履歴

【手順②】システム構築の実行(= Stack作成) (2/4)

The screenshot shows the Exastro Conductor interface. On the left, there's a sidebar with a logo and navigation links like 'Menu', 'Conductor', 'Conductor作業実行', 'Conductor定期作業実行', etc. The main area has a title '説明' (Description) with a '△閉じる' (Close) button. Below it are four tabs: 'スケジューリング', 'Conductor[フィルタ]', and 'Conductor[一覧]'. The 'Conductor[一覧]' tab is selected. A table lists several conductors with columns: '選択', 'ConductorクラスID', 'Conductor名称', '説明', '最終更新日時', and '最終更新者'. The row for 'オートスケールWebシステム / 構築・更新' (Conductor ID: 100,004) is highlighted with a red box and a mouse cursor. This row contains the following details:

- ConductorクラスID: 100,004
- Conductor名称: オートスケールWebシステム / 構築・更新
- 説明: オートスケールWebシステムの構築・更新を実行します。
◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」
- 最終更新日時: 2021/05/01 00:00:00
- 最終更新者: データポータビリティプロシージャ

実行するConductorを選択

「オートスケールWebシステム / 構築・更新」を選択

This screenshot shows the 'Operations [Filter]' and 'Operations [List]' tabs. The 'Operations [List]' tab is selected, displaying a table of operations with columns: '選択', 'No.', 'オペレーションID', 'オペレーション名', '実施予定時', '最終実行日時', 'アクセス許', '最終更新日時', and '最終更新者'. The second operation, '環境A(1stモデル)', is highlighted with a red box and a mouse cursor. This row contains the following details:

- No.: 100,002
- オペレーションID: 100,002
- オペレーション名: 環境A(1stモデル)
- 実施予定時: 2021/04/01 12:10
- 最終実行日時: 2021/04/01 12:10
- アクセス許: 1stモデル管理者ロール,AWS管理者ロール,インフラ管理者ロール
- 最終更新日時: 2021/05/01 00:00:00
- 最終更新者: データポータビリティプロシージャ

オペレーション(=パラメータのセット)を選択
例えば「環境A(1stモデル)」を選択

【手順②】システム構築の実行(= Stack作成) (3/4)

Conductor実行

EXECUTE 全体表示 表示リセット フルスクリーン

Template Fileの変数にパラメータの値を埋め込みます
(Stack分ループします)

埋め込み済みのTemplate Fileを使ってStackを作成します
(Stack分ループします)

Conductor名稱
Name : オートスケールWebシステム / 構築・更新
Note
オートスケールWebシステムの構築・更新を実行します。◆実行ユーザー:「インフラ管理者」

Operation
Operation ID : 100002
Operation name : 環境A(1stモデル)

ログ 実行をクリック

実行

【手順②】システム構築の実行(= Stack作成) (4/4)

Exastro IT Automation Conductor

ようこそ[インフラ管理者]さん
ログインID [1st-infra-admin]
[パスワード変更] [ログアウト]

Menu

CHECKING

正常終了すればシステム完成です

Conductor名称 : Conductor instance ID : 8
Conductor name : オートスケールWebシステム / 構築・更新
Status : 正常終了
Start time : 2021/05/25 14:02:07
End time : 2021/05/25 14:08:16
Execution user : インフラ管理者
Reservation date :
Emergency stop :
Note : オートスケールWebシステムの構築・更新を実行します。♦実行ユーザー：「インフラ管理者」

Operation

Operation ID : 100002
Operation name : 環境A(1stモデル)

ログ

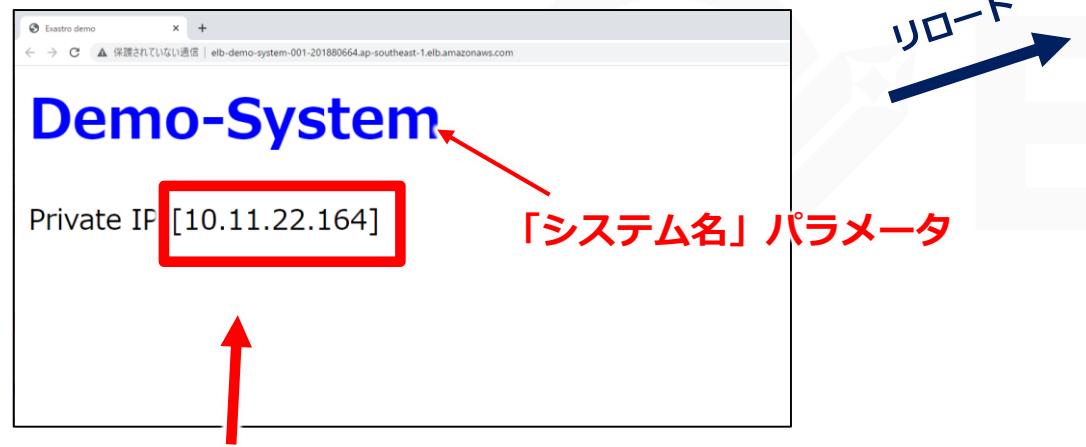
緊急停止

管理者に連絡

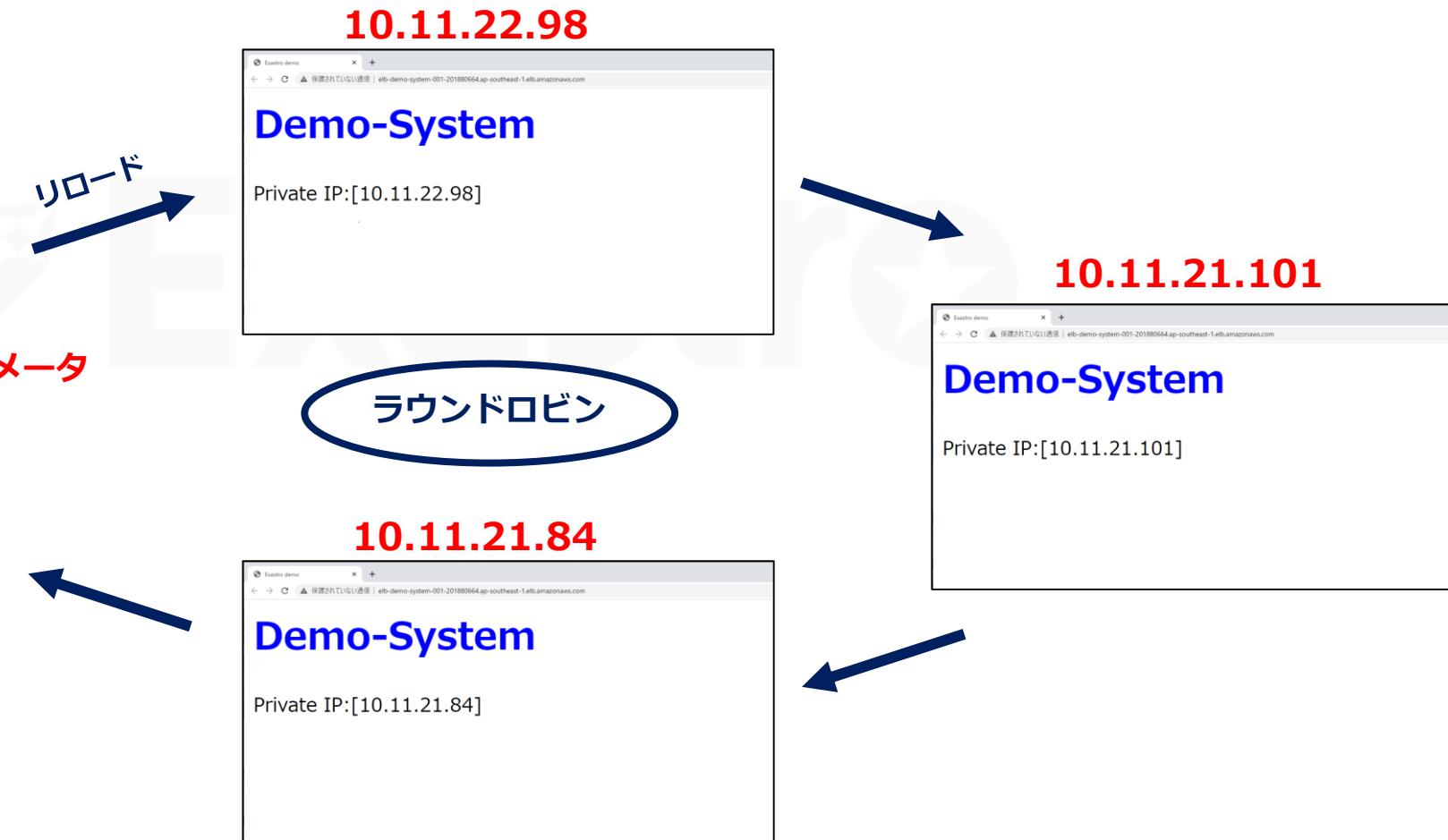
出来上がったシステムを確認

ブラウザでロードバランサにアクセスすると、下記の通り簡単なWeb画面が閲覧できます。
(リロードするたびに、複数のWebサーバをラウンドロビンすることが確認できます。)

ロードバランサへのアクセス画面



プライベートIPアドレス
10.11.22.164





参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー -

参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー - (1/4)

The screenshot shows the Exastro IT Automation Document Management system. The top navigation bar includes the Exastro logo, 'ドキュメント管理' (Document Management), and user information: 'ようこそ[1stモデル管理者]さん' (Welcome [1st Model Manager]), 'ログインID [1st-admin]', 'パスワード変更' (Change Password), and 'ログアウト' (Logout).

The left sidebar menu has the following items: メインメニュー (Main Menu), 基本設計書 (Basic Design Document), 詳細設計書 (Detailed Design Document), and 導入手順書 (Procedure Manual). The 'Filter' screen is currently active, displaying a table with columns: 廃止 (Delete), No., 資料名 (Document Name), 資料概要 (Document Summary), ファイルアップロード (File Upload), アクセス権 (Access Rights), 備考 (Remarks), 最終更新日時 (Last Update Date), and 最終更新者 (Last Updated By). There are dropdown search filters for each column and a search bar at the bottom.

The 'List' screen is shown below, with a red box highlighting the first item in the table. The table columns are identical to the filter screen. The highlighted row contains the following data:

履歴	更新	廃止	No.	資料名	資料概要	ファイルアップロード	アクセス権	備考	最終更新日時	最終更新者
履歴	更新	廃止	1	CSテンプレート_1stモデル_導入手順書	CSテンプレート_1stモデル_導入手順書	CSテンプレート_1stモデル_導入手順書.pptx	アクセス許可ロール		2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ

Below the table, it says 'フィルタ結果件数: 1' (Number of filtered results: 1). The document preview shows a table of contents with sections like '1.1stモデルの概要', '2.1stモデルの導入手順', etc.

CSテンプレートの設計書類もExastro IT Automationで管理可能です。ドキュメント管理に必要なドキュメントをアップロードします。

The bottom navigation bar includes links: 登録 (Register), 全件ダウンロードとファイルアップロード編集 (Full download and file upload edit), and 変更履歴 (Change history).

参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー - (2/4)

Exastro IT Automation システム/シナリオ ようこそ[1stモデル管理者]さん
ログインID [1st-admin]
パスワード変更 ログアウト

☰ Menu ▽開く
メインメニュー
CloudFormationロール
オートスケールWebシステム ▽開く

説明 ▽閉じる
表示フィルタ ▽閉じる
一覧/更新 △閉じる

セキュリティ付帯機能

履歴	更新	廃止	No	予定日時	最終実行日時	代入順序	パラメータ	実行対象	ハンドショフ	アクセス権	最終更新日時	最終更新者	
履歴	更新	廃止	1	04/01 12:10			1-KMS	TPF_Security_KMS	•	•		2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	2	04/01 12:10			2-S3	TPF_Strage_S3	•	•	2	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	3	04/01 12:10			3-SNS	TPF_AppIntegration_SNS	•	•		2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	4	04/01 12:10			4-CloudTrail	TPF_Management_CloudTrail	•	•		2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	5	04/01 12:10			5-Network	TPF_Network	•	•		2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	6	04/01 12:10			6-SecurityGroup	TPF_SecurityGroup	•	•		2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	7	04/01 12:10			7-Bastion	TPF_Bastion	•	•		2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	8	04/01 12:10			8-AutoScale	TPF_AutoScale	•	•		2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	9	04/01 12:10			9-VPCflowlogs	TPF_Management_VPCflowlogs	•	•		2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	10	04/01 12:10			10-TrustedAdvisorAlarm	TPF_Management_TrustedAdvisorAlarm	•	•		2021/05/11 16:20:06	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	11	04/01 12:10			11-CloudWatchAlarm	TPF_Management_CloudWatchAlarm	•	•		2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	12	04/01 12:10			12-WAF	TPF_Security_WAF	•	•		2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	13	04/01 12:10			13-Metricsfilter	TPF_Management_Metricfilter	•	•		2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ

ファイル結果件数: 13

Excel出力

登録 ▽開く

管理者に連絡

シナリオ毎に使うスタック(=Template File)を紐づけます

※ 例えば「オートスケールWebサーバ」では11本のスタックを紐づけています。

※ 構築対象に「●」を付けているものが構築されます。

「●」をメンテナンスすることでスタックを選択できます。

※ スタック単位にリトライ回数の設定も可能です。

参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー - (3/4)

Exastro IT Automation Ansible共通

ようこそ[1stモデル管理者]さん
ログインID [1st-admin]
パスワード変更 ログアウト

Menu

- メインメニュー
- インターフェース情報
- Ansible Towerホスト一覧
- グローバル変数管理
- ファイル管理
- テンプレート管理
- 収集インターフェース情報
- 収集項目値管理

説明

表示フィルタ

一覧/更新

履歴	更新	廃止	素材ID	テンプレート埋込変数名	テンプレート素材	変数定義
履歴	更新	廃止	100,011	TPF_Bastion	CS_Template_Bastion.yaml	VAR_ImageId_Bas: VAR_InstanceType_Bas: VAR_KeyName_Bas:
履歴	更新	廃止	100,012	TPF_AutoScale	CS_Template_AutoScale.yaml	VAR_HealthCheckPath: VAR_BlockDeviceName: VAR_BlockDeviceVolume: VAR_ElbWeb: VAR_InstanceType_Web: VAR_KeyName_Web: VAR_CertificateArn: VAR_ElbLogPrefix1: VAR_ElbDeletionPolicy: VAR_MaxInstance: VAR_MinInstance: VAR_ScalingCoolDown: VAR_HealthCheckGracePeriod: VAR_HttpAllow: VAR_LogGroupRetentionInDays: VAR_NotificationTrustedAd:
履歴	更新	廃止	100,013	TPF_Management_VPC	CS_Template_Management_VPC.yaml	VAR_LogGroupRetentionInDays: VAR_EMailInfraAdminGroup: VAR_EMailInfraMemberGroup: VAR_AlarmPeriod: VAR_NotificationTrustedAd:
履歴	更新	廃止	100,014	TPF_Management_TrustedAdvisorAlarm	CS_Template_Management_TrustedAdvisorAlarm.yaml	VAR_NetBytesRecv: VAR_NetBytesSent: VAR_FileSystemType: VAR_BufferSize: VAR_BufferInterval: VAR_CompressionFormat: VAR_BucketNameWAFLog: VAR_ExpirationDayWAFLog:
履歴	更新	廃止	100,015	TPF_Management_CloudWatchAlarm	CS_Template_Management_CloudWatchAlarm.yaml	VAR_NetBytesRecv: VAR_NetBytesSent: VAR_FileSystemType: VAR_BufferSize: VAR_BufferInterval: VAR_CompressionFormat: VAR_BucketNameWAFLog: VAR_ExpirationDayWAFLog:
履歴	更新	廃止	100,016	TPF_Security_WAF	CS_Template_Security_WAF.yaml	VAR_NetBytesRecv: VAR_NetBytesSent: VAR_FileSystemType: VAR_BufferSize: VAR_BufferInterval: VAR_CompressionFormat: VAR_BucketNameWAFLog: VAR_ExpirationDayWAFLog:
履歴	更新	廃止	100,017	TPF_Management_Metricfilter	CS_Template_Management_Metricfilter.yaml	VAR_NetBytesRecv: VAR_NetBytesSent: VAR_FileSystemType: VAR_BufferSize: VAR_BufferInterval: VAR_CompressionFormat: VAR_BucketNameWAFLog: VAR_ExpirationDayWAFLog:

Ansible変数化した
「Template File」
はこちからで管理

```
87  
88 # 2.ElasticLoadBalancing  
89 # 2-1.ElasticLoadBalancing  
90 # ElasticLoadBalancing1:  
91 # Type: 'AWS::ElasticLoadBalancingV2::LoadBalancer'  
92 # Properties:  
93 #   IpAddressType: ipv4  
94 #   LoadBalancerAttributes:  
95 #     - Key: access_logs.s3.enabled  
96 #       Value: true  
97 #     - Key: access_logs.s3.bucket  
98 #       Value:  
99 #       Fn::ImportValue: !Sub ${SystemName}-S3BucketNameAlbLog  
100 #     - Key: access_logs.s3.prefix  
101 #       Value: !Ref AlbLogPrefix1  
102 #     - Key: deletion_protection.enabled  
103 #       Value: false  
104 #     - Key: idle_timeout.timeout_seconds  
105 #       Value: 60  
106 #     - Key: routing.http2.enabled  
107 #       Value: true  
108 #     Name: !Sub elb-${SystemName}-001  
109 #     Scheme: internet-facing  
110 #     SecurityGroups:  
111 #       - Fn::ImportValue: !Sub ${SystemName}-ELBSecurityGroup  
112 #     Subnets:  
113 #       - Fn::ImportValue: !Sub ${SystemName}-SubnetIdPublic1  
114 #       - Fn::ImportValue: !Sub ${SystemName}-SubnetIdPublic2  
115 #       - Fn::ImportValue: !Sub sub-${SystemName}-public-001  
116 #       - Fn::ImportValue: !Sub sub-${SystemName}-public-002  
117 #     Tags:  
118 #       - Key: Name  
119 #         Value: !Sub elb-${SystemName}-001  
120 #       - Key: Environment  
121 #         Value: !Sub "${Environment}"  
122 #       - Key: Application  
123 #         Value: !Sub "${Application}"  
124 #       - Key: Owner  
125 #         Value: !Sub "${Owner}"  
126 #       - Key: Department  
127 #         Value: !Sub "${Department}"  
128 #       - Key: CostCenter  
129 #         Value: !Sub "${CostCenter}"  
130 #     # 2-2.Listener  
131 #     #<br>
```

参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー - (4/4)

Exastro IT Automation Ansible-Legacy ようこそ[1stモデル管理者]さん
ログインID [1st-admin]
パスワード変更 ログアウト

☰ Menu

メインメニュー

Movement一覧

Playbook素材集

Movement-Playbook紐付

代入値自動登録設定

作業対象ホスト

代入値管理

作業実行

作業状態確認

作業管理

説明

表示フィルタ

一覧/更新

履歴	更新	廃止	素材ID	Playbook素材名	Playbook素材	Movement
履歴	更新	廃止	100,001	CloudFoamationモジュール実行/構築更新	CloudFoamation.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,002	CloudFormationモジュール実行/構築更新/基盤・ロール	CloudFormation_IAM.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,003	CloudFoamationモジュール実行/構築更新/IAMユーザー	CloudFormation_User.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,004	CloudFormationモジュール実行/削除	CloudFormation_Delete.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,005	CloudFoamationモジュール実行/削除/IAMユーザー	CloudFormation_Delete_User.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,006	テンプレートファイルを作成	TemplateFile.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,007	テンプレートファイルを作成/IAMユーザー	TemplateFile_User.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,008	機器一覧同期 / EC2取得	1-GetEc2List.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,009	機器一覧同期 / 機器一覧	2-DeviceList.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,010	機器一覧同期 / ホストグループ	3-HostGroup.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,011	機器一覧同期 / パラメータ	4-Parameter.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,012	機器一覧同期 / テンプレート	Teams_setting.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,013	T-SMS正常通し	Teams_message_success.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,014	T-SMS不正通し	Teams_message_error.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,015	ユーザー登録	Set_user_data.yaml	Movement
履歴	更新	廃止	100,016	LB DNS名	Get_elb_dnsname.yaml	Movement

使用している「Ansible Playbook」はごちらで管理

※ 単純なPlaybookで実現できています

```
state: present
template: "[[_symphony_workflowdir_]]/{{ item.0 }}.yaml"
template_params:
  UpdateDate: "[[ lookup('pipe', date +%Y%m%d%H%M') ]]"
role_arn: "arn:aws:iam::{{ VAR_accountId }}:role/CloudFormationRole"
validate_certs: no
when: item.1 == '●'
with_together:
  - "[[ VAR_stackName }}"
  - "[[ VAR_EXE_FLAG }}"
environment:
  AWS_ACCESS_KEY_ID: "[[ VAR_ACCESS_KEY }}"
  AWS_SECRET_ACCESS_KEY: "[[ VAR_SECRET_ACCESS_KEY }}"
  AWS_DEFAULT_REGION: "[[ VAR_REGION }}"
[EOF]
```

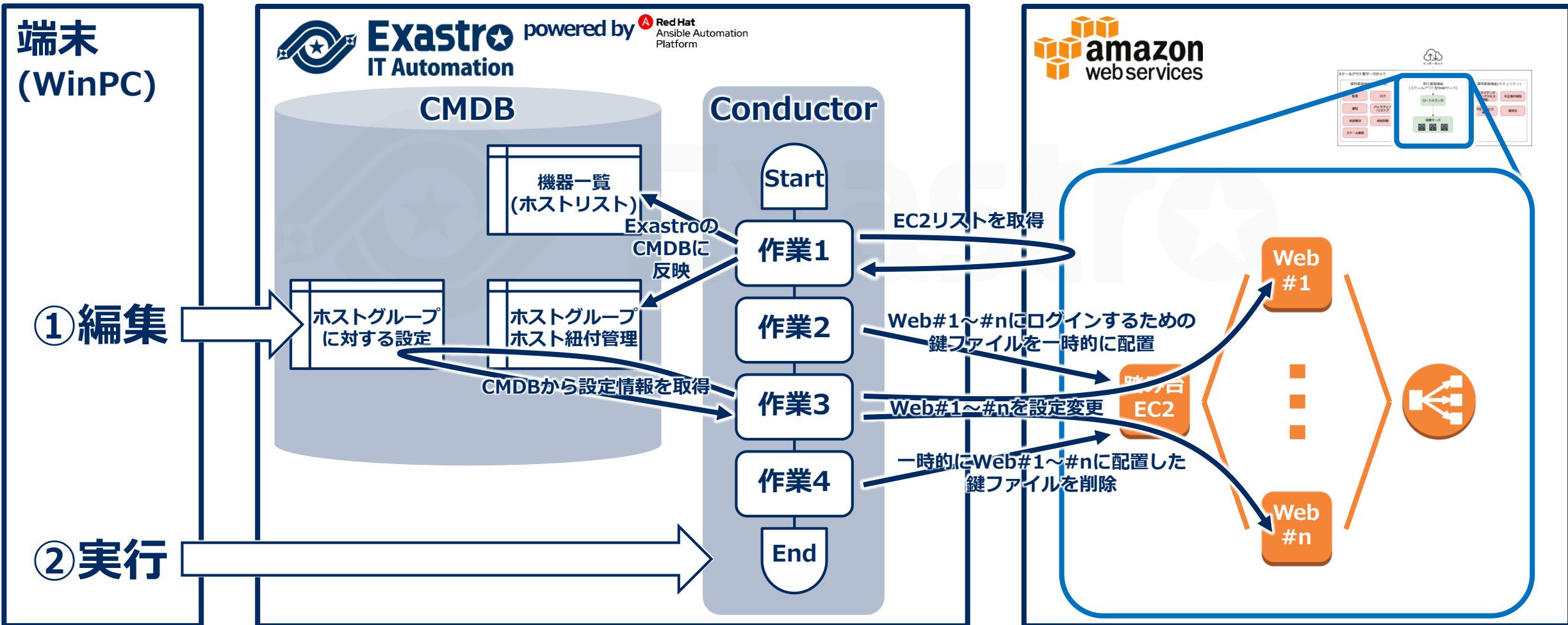
```
- name: Create Templatefile
  template: src="{{ item.1 }}" dest="{{ _symphony_workflowdir_ }}/{{ item.0 }}.yaml"
  when: item.2 == '●'
  with_together:
    - "[[ VAR_STACKNAME }}"
    - "[[ VAR_TPFFILE }}"
    - "[[ VAR_EXE_FLAG }}"
```

```
[EOF]
```



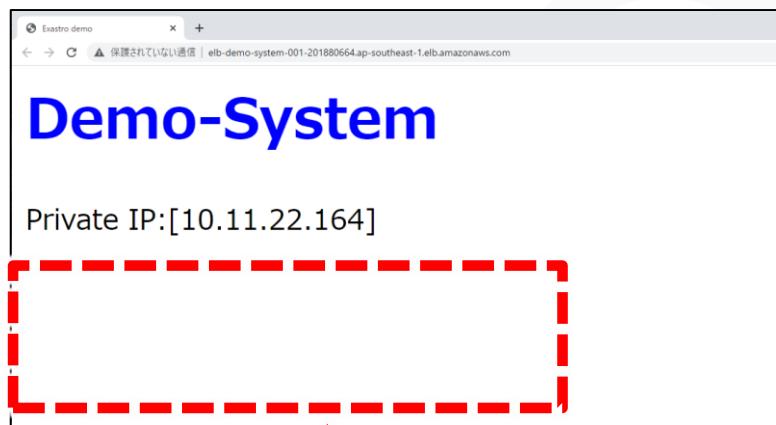
付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する -

稼働中のEC2(オートスケール)に緊急でパッチ適用するケースなどにおいて Exastro ITA + Red Hat Ansible Automation Platformを活用頂けます

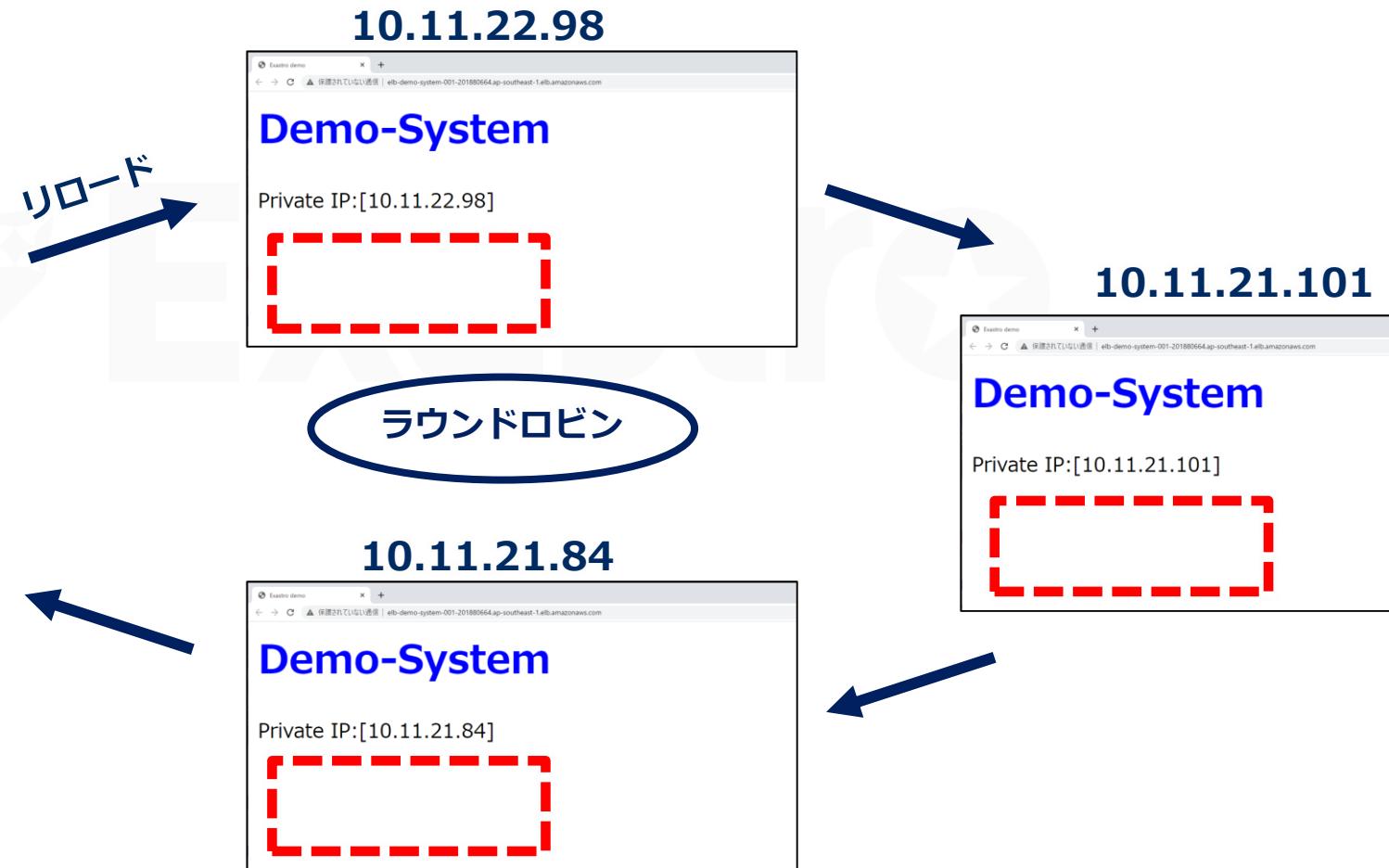


オートスケール対象の複数台のEC2に対してWeb画面に画像(※)を挿入します。
※ EC2に対するパッチ適用に見立ててご理解ください。

ロードバランサへのアクセス画面



画像が無い状態
(パッチ適用前と考えてください)



付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する - (3/6)

Exastro IT Automation Ansible共通

ようこそ[1stモデル管理者]さん
ログインID [1st-admin]
パスワード変更 ログアウト

Menu

- メインメニュー
- インターフェース情報
- Ansible Towerホスト一覧
- グローバル変数管理
- ファイル管理
- テンプレート管理
- 収集インターフェース情報
- 収集項目値管理

説明 ▽開く

表示フィルタ ▽開く

一覧/更新 △閉じる

履歴	更新	廃止	素材ID	ファイル埋込変数名	ファイル素材	アクセス権	最終更新日時	最終更新者	
履歴	更新	廃止	100,001	CPF_EC2_USER_DATA	ec2_userdata	1stモデル管理者ロール, インフラ管理者ロール, インフラメンバーロール	Webサーバのユーザー	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	100,002	CPF_IMAGE_FILE	exastro-logo.png	1stモデル管理者ロール, インフラ管理者ロール, インフラメンバーロール	Webサーバの表示	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	100,003	CPF_KEY_PAIR_BASTION	dummy.pem	1stモデル管理者ロール, インフラ管理者ロール, インフラメンバーロール	踏み台サーバのキー	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
履歴	更新	廃止	100,004	CPF_KEY_PAIR_WEB	dummy.pem	1stモデル管理者ロール, インフラ管理者ロール, インフラメンバーロール	Webサーバのキー	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ

フィルタ結果件数: 4

Excel出力

登録

全件ダウンロードとファイルアップロード編集

変更履歴

管理者に連絡



挿入したい画像をアップロード
(パッチデータをアップロードするイメージ)

素材ID	ファイル埋込変数名*	ファイル素材*	備考	最終更新日時	最終更新者
7	CPF_IMAGEFILE	現在アップロードされているファイル: super-tower.jpg ファイルを選択 選択されていません	デモ表示用画像	自動入力	自動入力
<p>事前アップロード</p> <p>アップロード状況:</p>					

※*は必須項目です。

戻る 更新

Exastro

30

付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する - (4/6)

メインメニュー

Conductorインターフェース情報

Conductorクラス一覧

Conductorクラス編集

Conductor作業実行

Conductor作業確認

Conductor作業一覧

Conductor定期作業実行

スケジューリング

Conductor[フィルタ]

Conductor[一覧]

△閉じる

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明	最終更新日時	最終更新者
<input type="radio"/>	100,001	AWS管理者基盤 / 構築・更新	AWS管理者のIAMグループ、IAMポリシーの作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
<input type="radio"/>	100,002	インフラユーザー基盤 / 構築・更新	インフラユーザーのIAMグループ、IAMポリシーの作成または更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
<input type="radio"/>	100,003	CloudFormationロール / 構築・更新	CloudFormation実行用IAMロールの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
<input type="radio"/>	100,004	オートスケールWebシステム / 構築・更新	オートスケールWebシステムの構築・更新を実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
<input type="radio"/>	100,005	セキュリティ付帯機能 / 構築・更新	セキュリティ付帯機能の構築・更新を実行します。 ▲ 実行ユーザー: 「AWS管理者」	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
<input type="radio"/>	100,006	オートスケールWebサーバへPlaybook実行	オートスケールWebシステムのWebサーバへPlaybookを実行します。 ◆実行ユーザー: 「インフラ管理者」	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
<input type="radio"/>	100,007	AWS管理者(IAMユーザー, ITAユーザー)の作成	「AWS管理者」としての権限を持ったIAMユーザー、ITAユーザーを作成します。 ◆実行ユーザー: 「1stモデル管理者」	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
<input type="radio"/>	100,008	インフラ管理者(ITAユーザー, IAMユーザー)の作成	「インフラ管理者」としての権限を持つITAユーザー、AWS管理者を作成します。 ◆実行ユーザー: 「AWS管理者」	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ

実行するConductorを選択

オペレーション[フィルタ]

「オートスケールWebサーバへPlaybook実行」を選択

オペレーション[一覧]

△閉じる

選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス許可	最終更新日時	最終更新者
<input type="radio"/>	100,001	100,001	共通オペレーション(1stモデル)	2021/04/01 12:10		1stモデル管理者ロール, AWS管理者ロール	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
<input checked="" type="radio"/>	100,002	100,002	環境A(1stモデル)	2021/04/01 12:10		1stモデル管理者ロール, AWS管理者ロール, インフラ管理者ロール	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ
<input type="radio"/>	100,003	100,003	環境B(1stモデル)	2021/04/01 12:10		1stモデル管理者ロール, AWS管理者ロール, インフラ管理者ロール	2021/05/01 00:00:00	データポータビリティプロシージャ

フィルタ結果件数: 3

↑ オペレーション(=パラメータのセット)を選択
例えば「環境A(1stモデル)」を選択

付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する - (5/6)

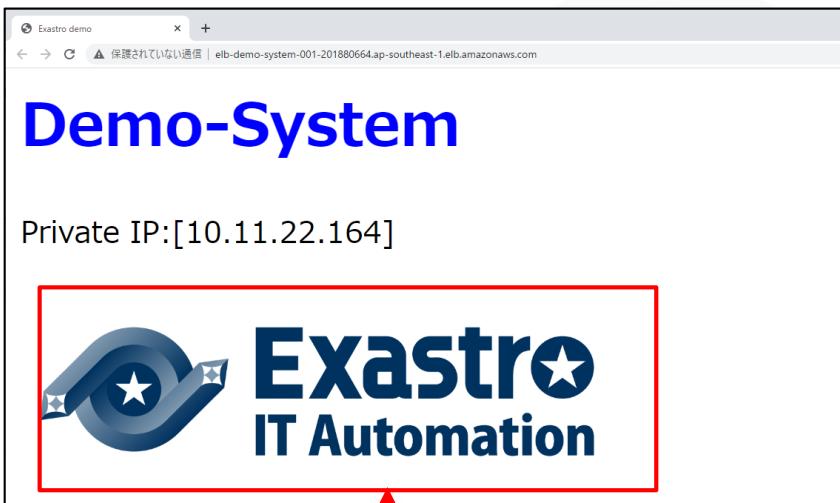
正常終了すればEC2への設定変更が完了です

The screenshot shows the Exastro IT Automation Conductor interface with the following details:

- Menu:** メインメニュー, Conductorインターフェース情報, Conductorクラス一覧, Conductor作業実行, **Conductor作業確認**, Conductor作業一覧, Conductor定期作業実行.
- Checking Tab:** Currently selected tab.
- Workflow Diagram:** A sequence of nodes connected by arrows. It starts with a 'Start' node (Conductor), followed by two 'Ansible Legacy' nodes (機器一覧を同期, キーペアを展開). A feedback loop returns from the second 'Ansible Legacy' node to the first. This is followed by another 'Ansible Legacy' node (WebサーバへPlaybook実行) and a '正常終了' (Normal End) node. From 'Normal End', the flow continues through 'Ansible Legacy' (キーペアを削除), 'End' (Conductor), and 'End' (SKIP).
- Conductor Information:**
 - Conductor instance ID: 10
 - Conductor name: オートスケールWebサーバへPlaybook実行
 - Status: 正常終了
 - Start time: 2021/05/25 14:04:55
 - End time: 2021/05/25 14:09:40
 - Execution user: インフラ管理者
 - Reservation date:
 - Emergency stop:
- Note:** オートスケールWebシステムのWebサーバへPlaybookを実行します。◆実行ユーザー：「インフラ管理者」
- Operation:**
 - Operation ID: 100002
 - Operation name: 環境A(1stモデル.)
- Log:** 空白 (ログ)
- Buttons:** 緊急停止, 管理者に連絡

オートスケール対象の複数台のEC2に画像が挿入されます。
(パッチが適用されたとお考え下さい)

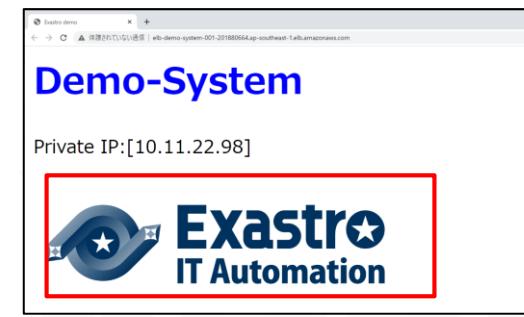
ロードバランサへのアクセス画面



全てのEC2に画像が挿入されます
(パッチが適用されたと考えてください)

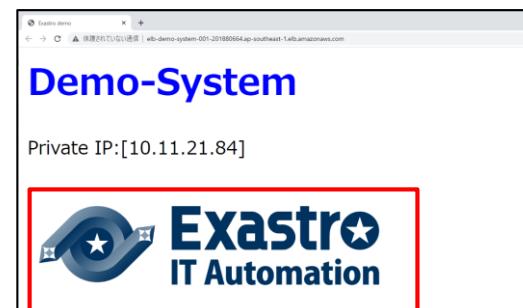
リロード

10.11.22.98

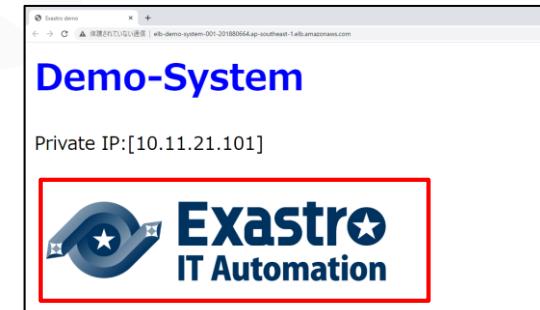


ラウンドロビン

10.11.21.84



10.11.21.101





Exastro 